

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2016年1月～2016年12月データ

リハビリテーション病院

項目	件数
新規入院患者数（再入院含めず）	410
1日平均患者数	90
平均在院日数	77.4
在宅復帰率	90.8
入院時重症度割合（30%以上）	38.4
退院時回復割合（30%以上）	73
重症度 A 項目（10%以上）	18.8
1療法士の平均実施単位	17.9
1患者平均リハビリテーション実施単位	7.24

通所リハビリテーション

利用実績	件数
利用件数（1月平均）	
クイック（1～2時間利用）	32
オーダー（3～4時間利用）	41
ベーシック（6～8時間利用）	64
利用延数（1月平均）	
クイック	228
オーダー	224
ベーシック	477
介護度割合（%）	
要介護1	8
要介護2	36
要介護3	20
要介護4	9
要介護5	6
要支援1	7
要支援2	14

地域医療連携室

項目	件数
新規入院相談件数	384
新規外来相談件数	7
入院相談	679
背景要因	7
カンファレンス	977
家族	2
職業・住居	19
経済	69
退院支援（転院・入所）	522
在宅支援・維持	9
その他	29
退院支援（在宅）	2,174
相談延件数	4,490

栄養科

項目	件数
一般食	49,070
特別食（加算）	31,251
特別食（非加算）	12,095
濃厚流動食	2,719
通所	5,617
職員食	10,125
入院食事指導	90
栄養サポートチーム回診患者数	82
栄養アセスメント件数	225
実習生受け入れ	4

紹介患者数

紹介元医療機関名	件数
総合上飯田第一病院	114
名古屋医療センター	112
春日井市民病院	32
西部医療センター	10
大隈病院	26
東部医療センター	27
名古屋第二赤十字病院	7
名古屋大学医学部付属病院	15
小牧市民病院	7
その他の医療機関	60

上飯田リハビリテーション病院

院長 金森 雅彦

➤ 特徴

回復期リハビリテーション病院として、入院時より退院後の生活を想定した取り組みを行っています。1日あたり最大で3時間の個別リハビリテーションの実施、看護師、介護福祉士などによるケアプランを通し、生活自体がリハビリテーションとなるように、医師をはじめ、リハビリスタッフ、看護師、介護士、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師、事務員など多職種協同で患者さまや利用者さまが希望する生活支援に向けて取り組んでいます。

➤ 2017年目標

回復期リハビリテーション病院の使命は急性期治療を終えてリハビリ中心の診療が必要な患者さまに対して、できる限り効果的なリハビリを提供し、回復していただくことです。しかし、不幸にして障害を残したまま退院となる患者さまも大勢います。患者さまが退院後も地域において安全で安心した生活ができるように、退院後も愛生会内の連携を密にして、地域の患者さま、利用者さまを支援していく努力をしていきたいと思っております。

看護部

看護部長 新野 ひろ子

➤ 特徴

病気やケガなどの障害により、以前のような生活を送れなくなった患者さま、利用者さまを、全ての職種の方々と協働し、総合的にサポートしていく事ができるよう、チームアプローチを実践しています。

そして、よりよい状態で、地域、社会、家庭に復帰していただけるよう、安全で安心な療養環境の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション入院料1

看護：回復期リハビリテーション看護師認定コース合格者2名

介護：アセッサー合格者6名

➤ 2017年目標

基本方針

1. 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する
2. 看護・介護水準向上のため、自己啓発・相互啓発に努める
3. 看護・介護職の専門性を自覚し、他職種との連携・チーム医療を推進する

目標

1. 温かみのある看護・介護サービスを提供する。

通所リハビリテーション

担当看護師長 中島 智子

➤ 特徴

クイック・オーダーメイド・ベーシックの3コースから利用者さまのご希望に合わせて選択できる通所リハビリテーションです。

全コースで送迎を対応しており、平成28年12月よりベーシックコースは祝日の利用が可能となりました。利用者さまに継続的なリハビリを提供させていただき心身機能の維持向上を図ります。また、通所スタッフにより健康管理やケア、日常生活訓練などを行い在宅生活のサポートに努めます。

➤2017年目標

専門性を生かしたサービスを提供し、家族やケアマネジャー・他事業所等との連携を図ります。

利用希望者をより多く受け入れる態勢の整備に努めます。

スタッフは積極的に研修へ参加し、質の向上を図ります。

地域医療連携室

医療ソーシャルワーカー 佐藤 顕世

➤ 特徴

地域医療連携室は、看護師1名、ソーシャルワーカーが3名で主に生活問題の相談を行い、看護師は各医療機関からの入院相談を受けています。平成28年度から退院支援加算が算定可能となり、算定件数は、204件あった。2016年は、延べ相談件数は3811件、在宅退院に伴う相談延べ件数が2174件で、在宅復帰率は92.3%となりました。

学会発表は、第11回愛知県医療ソーシャルワーカー学会にて、「退院支援プロセスと自宅生活継続に関する考察～」を発表し、優良賞を獲得しました。

➤2017年目標

退院支援の院内パスを作成し、在院日数の短縮や在宅復帰率の向上を目指します。また、各急性期病院からの紹介件数を増やし、できる限り早期の受入とお断りの件数を減らせるよう、努めていきます。

リハビリテーション科

リハビリテーション科科长代行 石黒 祥太郎

➤ 特徴

施設基準：脳血管疾患等リハビリテーションⅠ
運動器リハビリテーションⅠ

人 員：理学療法士29名（2名は通所リハビリテーションに所属、
1名は3回／週 あいせいデイサービスへ派遣）
作業療法士24名（2名は通所リハビリテーションに所属）
言語聴覚士 8名（1名は2回／週 愛生訪問看護ステーションへ派遣）

当科は回復期病床（98床）に対して上記のスタッフを配置しており、回復期から在宅・施設復帰まで一貫したリハビリテーションを提供しております。

また、入院リハビリのみに止まらず、外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリ、デイサービスなど様々な業務にスタッフがかかわり、当地域の地域包括ケアシステム構築の一助となるように取り組んでいます。

➤2017年目標

治療効果の向上（退院時 ADL の向上、実績指数の向上）
退院支援の強化
法人内・外での連携の強化



当地域の地域包括ケアシステム構築に寄与する

栄養科

栄養科 永谷 結佳

➤ 特徴

栄養科は1名のみの構成ですが、給食部門の運営については委託会社（日本ゼネラルフード株式会社）と提携して行っております。

回復期における栄養管理では、急性期とは異なった栄養管理（特にリハビリでの消費量を念頭に置いた栄養管理）が必要とされます。低栄養状態の患者さまにおいては、栄養状態の改善無くしてはリハビリ効果の向上に繋がりません。当院では、給食で補いきれない栄養に関しては栄養補助食品を導入し、様々な面から栄養アプローチできるよう努めています。

➤2017年目標

- ・低栄養「予防・改善」のための栄養管理（フレイル・サルコペニアなど）
- ・（給食）食事満足度・喫食率の向上、残飯削減
- ・（NST）NST 勉強会開催の普及

薬剤部

薬剤部 係長 小酒井 修

➤ 特徴

調剤、医薬品の安全性情報の収集・提供を行うことで医療行為が円滑に行われるようにサポートしています。

患者さまの持参薬の識別、当院における代替え医薬品の情報を行っています。

患者さまの持参薬を再分包することで、患者さまが服用しやすい状態にすることによって、患者さまのコンプライアンス向上に寄与しています。

➤ 2017年目標

当院の特性から患者さまは多剤併用例が多くみられます。医師と協力しながら、いま問題となっている「ポリファーマシー」軽減に努めます。